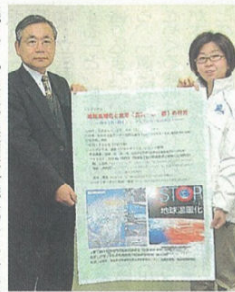


「温暖化と生活」考えて

JICA帰国専門家
9日にシンプ

福島
JICA帰国専門家、技術指導で派遣された各連絡会のシンポジウム分野の専門家らで組織して「地球温暖化と生活（食料・水・森）の行方」は九日午後一時半から、福島市の県文化センターで開かれる。連絡会は開発途上国に



シンポジウムをPRする松谷代表幹事（左）と橋本さん

進グループ参事が基調講演したあと、岡三徳農業総合センター所長、柴崎直明、福島大共生システム理工学類教授、荒井賛、黒緑の協力隊副理事長が講演やパネルディスカッションを行う。参加

無料。問い合わせは、本松青年海外協力隊訓練所（JICA二本松）電話0243-243300へ。代表幹事来社しPR

JICA帰国専門家連絡会の松谷代表幹事は、シンプウムPRのため三十一日、福島民報社を訪れた。松谷代表幹事は「海外の事例から地球温暖化に理解を深めてほしい」と語った。JICA二本松国際協力推進員の橋本千賀子さんが一緒に訪れた。

温暖化対策でシンプ

2/10
JICAで活動した専門家ら

福島



地球温暖化と生活の行方をテーマに開かれたシンポジウム

「地球温暖化と生活（食料・水・森）の行方」をテーマにしたシンポジウムは

九日、福島市で開かれ、参加者が開発途上国で技術指導した専門家たちの語り合いから温暖化対策のヒントを探った。

国際協力機構（JICA）帰国専門家連絡会の主催、JICA二本松青年海外協力隊訓練所の協賛、県、県地球温暖化防止活動推進センター、福島民友新聞社などの後援。

約百五十人が聴講した。飯塚俊二環境活動推進グループ参事が基調講演し、地球温暖化による本県を含めた社会や環境への影響、県が取り組んでいる対策について説明した。

パネルディスカッションでは、タイで活動した松谷要寿同連絡会代表幹事をコーディネーターに、タイなどで活動した岡三徳農業総合センター所長、東南アジアなどで活動した柴崎直明、福島大共生システム理工

学類教授、中国各地で活動した荒井賛NPO法人県緑の協力隊副理事長が海外での事例を踏まえ、温暖化の影響や対策についてそれぞれの立場から助言した。

地球温暖化を考えたシンポジウム

地球温暖化の影響を考えようと初めて企画した。約七十人が出席した。



JICA関係者温暖化対策討論

福島でシンプ

JICA帰国専門家連絡会のシンポジウム「地球温暖化と生活（食料・水・森）の行方」は九日、福島市の県文化センターで開かれた。連絡会は開発途上国で国際協力活動に取り組んだ各分野の専門家らで組織しており、海外での経験を紹介しながら日本や本県での

飯塚俊二環境活動推進グループ参事が基調講演し、岡三徳農業総合センター所長、柴崎直明、福島大共生システム理工学類教授、新井賛、黒緑の協力隊副理事長が講演した。飯塚参事は日本や本県での温室効果ガスの排出状況などを説明し、省エネの推進などの県の取り組みを紹介した。パネルディスカッションでは、連絡会の松谷要寿代表幹事をコーディネーターに、講演者が地球温暖化の防止対策などについて幅広く意見を交わした。